

越前町議会・令和6年9月定例会一般質問【石田和朗議員】

(令和6年9月5日 午前11時19分 開始)

○4番（石田和朗君） 4番、石田。

この間贈呈されました島田雅胤先生の「日本のこれからをつくる本」を拝読させていただきまして、内容は、私にとってはハイレベルな思考もありましたが、ご尊父の段になりました島田七郎兵衛さん、私と同郷、織田の方で存じ上げることがあって、読み進むのは楽で完読いたしました。エッセイ集なので、1ページから読むんでなくて、思い出したら段落ごとに何度も繰り返して読める本でした。

議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

越前町の町並み、景観について、特に劔神社周辺についてをお伺いいたします。

7月の越前みなと大花火は、梅雨の雨が降り続きで心配していましたが、当日は晴れ上がり、開催できました。予想どおり大変な人出でした。今年はスマホでの予約席を確保して、観客席で心置きなく座れて、花火は迫力があり、美しくきれいで、満足できました。私勝手な感触でしたが、港を会場にした防波堤から打ち上げ、後ろ山からこだま音が、越前町ならではの夏の風物詩というか、自慢できる景観でした。

8月10日、O・T A・I・K O響はすごい観客で大盛り上がり、天気で本当によかったです。ふるさと創生で作った西日本一の大太鼓、明神を活用して、もう35周年。はや35年。伝統の域に入ったお祭りと言えます。今年は帰省できなかった県外の知り合いがユーチューブで鑑賞して、観客の総立ちとステージ出演者の一体化の景観は、すごく感動したというメールがありました。

先日朝早く、北陸新幹線越前たけふ駅からつるぎ4号に乗り、金沢駅で下車して兼六園にあるパワースポット、辰年に参拝すると生命力と運気をさせる竜神を祭る神社に参りました。おさい銭の効果・効能は分かりません。新しくなった兼六園周辺や金沢駅構内は、平日なのに観光客の多さ、インバウンド外国人がみどりの窓口にひしめき、次の行き先を駅員と話し合う光景を目の当たりにして驚きました。そのときふと、観光とは、維持管理とは、人と人との交わりとは、温故知新を考えさせられました。古きをたずねて新しきを知る。昔、孔子が勤行をまとめた論語にある言葉で、昔のことをたずね歩いて、そこから新しい知識、見解を導くことは周知のとおりです。

この前、議員視察研修でみやま市、福岡県三池郡高田町、山川町、山門瀬高町が合併したみやま市を訪問して、本物の幸若舞を鑑賞させていただきました。ステージの後ろの部屋には、演目によって移動可能な能舞台。伝統を引き継ぐ鼓の方や舞方がゆったりと厳かに舞い上げたのは、織田信長が桶狭間の戦いの前に舞った「人生五十年、下天のうちを憂ふれば、夢幻のごとくなり」で有名な「敦盛」の演目でした。800年の伝統を引き継ぐ幸若舞の舞方たち、みやま市が国の重要無形文化財を誇りに思い、近代的な能舞台をつくって多くの人に鑑賞していただくとする姿勢、姿は、合併20周年の町、越前町にも人に誇れる文化財や伝統芸能がたくさんあって、参考になりました。

10月10日、秋期例祭の神事の後に、子どもたちの明神ばやしの奉納太鼓、前日には町内へのふれ太鼓、ドドスカドンの太鼓の音や笛の音は、みんなの気持ちを高ぶらせます。その太鼓活動がO・T A・I・K O響の源流と言えます。秋期

例祭、おたまつりは周辺の市町からたくさんのお客様が劔神社に参集して、華やかで露店、夜店が多く出店していて、ごった返しの大変なにぎやかさでした。商店街も劔神社の鐘道路を中心にT字型に門前町として繁栄していました。モータリゼーションの変化や大店舗法の改正など多くの要因があって、衰退ぎみ。赤い鳥居をモチーフにした織田バスターミナル近くに織田信長銅像、劔神社の周辺に織田文化歴史館などの施設はありますが、にぎわいを呼び戻すには至っていません。

劔神社の社務所が、多くの皆さんの努力もあって年末には再建いたします。門前の道路改修・段差解消工事は地区の区長会とかコミュニティの方の働きが実り、工事は既に終了しています。道幅が広くなり、景観がよく、馬場通りの呼び名に合います。一方、本年5月31日をもって門前にあった、人気のあったお店の閉店は寂しいというリピーターの声を踏まえて、そこで、劔神社周辺に係る景観づくりを起爆剤にして、今後の織田の山里の蘇生、再生について、その見通しについて町長に所見をお伺いいたします。よろしくお願いします。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

町長（青柳良彦君） 登壇

○町長（青柳良彦君） それでは、石田議員のご質問にお答えいたします。

令和3年4月に、織田地域コミュニティ運営委員会委員長より、劔神社周辺の町並みの保全やにぎわいの創出、魅力の発信に向けた再整備の検討を目的とした要望書の提出がありました。要望書の内容は、町がハード面の整備を行い、地元住民が街歩きマップづくりなどのソフト面を担うというものでした。ハード整備の具体的要望内容としては、劔神社前の歩道の撤去、町営体育館解体後の跡地整備、織田バスターミナルにある信長像の移設、看板・サインの整備です。

要望を受けて、町では昨年度、北陸新幹線開業や国道417号冠山峠道路の開通による交流人口の増加も見込めることから、観光客の乗降の利便性や町並みのデザインを考慮しながら、総事業費4,764万1,000円をかけて歩道の段差を解消する工事を行いました。

また、劔神社周辺を案内する看板を文化歴史館の駐車場に新設するとともに、神社前の案内掲示板を更新いたしました。ほかのハード整備につきましては、解体費用や移設費用、跡地利用計画など課題も多く、慎重な対応が求められるものと思いますが、今後、課題解決に向けた検討も地元の皆さんと協議しながら進めていく必要があると考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（佐々木一郎君） 石田和朗君。

○4番（石田和朗君） ご丁寧なご答弁ありがとうございます。

いずれにしても、もうすぐ越前二の宮劔神社鎮座800年大祭、それに向かって頑張っているたくさんの方がいます。応援よろしくお願いします。これで私の質問は終わります。

（午前11時32分終了）